令和６年度「地域とともにある小中一貫教育」に関する自己評価書(前期)

鬼北町立日吉小・中学校

分野	目　的	目　標（評価指標）	評定 小中	評価資料の分析	考察及び改善策
小中一貫教育	義務教育９年間の一貫した指導による教育の質の保証・向上	①　乗り入れ授業やICT活用等により、児童生徒の学力の向上を図る。	B　A	専門教科の乗り入れ授業と、ICT機器を活用した授業実践を行うことで学力の向上を目指している。小学校・中学校ともに、家庭学習や読書の習慣について課題がある。	教員の専門性を生かした授業を行うことができている。家庭学習記録表等を活用し、家庭学習や読書活動の充実を図る。また、個別指導にも力を入れる。
		②　小中合同行事を実施することにより、小中学生の交流の場をつくる。	A　A	小中連携行事を計画的に実施し、効果的な交流ができた。	今後も児童会・生徒会を中心に、創意工夫を生かした行事や交流活動を行う。
		③　９年間を見通した系統的なカリキュラムによって「郷土学」を実施する。	A　A	地域コーディネーターを活用し、地域の方々の協力を得ることで、多様な学習内容を実施することができた。	地域コーディネーターを活用し、今後も充実した「郷土学」を計画的に展開していく。また、郷土学の担当者を中心に、小中のつながりを意識し、変更や改善を加えていく。
	学校運営協議会委員の所見	○　個々の学習が向上していれば良い。 ○　子供の頃から ICT に慣れて使えるようになるのは良い。 ○　日吉地区だからこそできる小中の乗り入れ授業や郷土学を、児童生徒数減、教員減になっても可能な限りされているので、児童生徒の学力向上に大いに役立っていると感じる。 ○　年々児童生徒が減っていく中で「苦」も多いでしょうが、逆に「楽」も多いと思う。それは、大人数でも同じことと思う。 ○　少人数による一貫教育の大変さというものを、端から見ていて痛感している。大変なことだと思うが頑張ってほしい。 ○　地域の方々に協力していただき学ぶ郷土学は、９年間を通して生徒たちがふるさとの良さを知り、興味や関心深い学びや経験ができることを期待する。 ○　小中合同の行事は、他の学校ではできない経験だと思う。お互いのためになっている。		学校の対応	○　小中合同研修会や小中連絡会で、児童生徒の様子を情報交換しながら、生徒指導、学習指導の充実を図っていく。 ○　ICTの効果的な活用については、合同の授業研究や研修会を通して、効果的な活用方法を探り、授業力の向上を目指す。 ○　家庭学習の充実について、「自主学習」の充実を目指し、小中で共通理解を図りながら実践していく。 ○　少人数の良さを生かしながら、児童生徒一人一人を大切にした学校教育の推進に力を注ぐ。

分野	目　的	目　標（評価指標）	評定 小中	評価資料の分析	考察及び改善策
コミュニティ・スクール	地域に開かれ信頼される学校づくり	④　学校運営協議会での意見を学校教育に反映する。	Ａ　Ａ	委員からの意見を参考に、取り入れられることから実行していくように心掛けている。	今後も、学校運営協議会でいただいた意見を、学校教育に反映する。
		⑤　学校教育の実態を把握できるよう、学校運営協議会委員に教育活動を公開する。	Ａ　Ａ	６月の参観日・教育懇談会の案内を全戸配布するなど、学校行事等の案内を積極的に行うことができた。	より多くの教育活動を公開し、気軽に参観できる雰囲気づくりに努める。
		⑥　教育活動の状況について地域住民に情報提供を行う。	Ａ　Ａ	学校だよりの全戸配布を継続しており、ホームページの更新もほぼ毎日行い、内容の充実も図った。	今後も、学校だよりやホームページ、ケーブルテレビ等を活用しながら、情報の発信を行っていく。
	学校運営協議会委員の所見	○　６月の参観日は、教育懇談会に地域の人も出席されていたが、少しずつでもその人数が増えて、生の学校の様子を知ってもらいたいものである。 ○　児童、生徒が少なくなり、参観日の保護者数も減少しているので、地域の人にも学校を開放し、参観してもらう機会があればよい。 ○　地域に住む者として、可能な限り協力したい。 ○　地域に開かれた学校づくりについて十分にできていると思う。 ○　地域住民への情報提供は、学校での活動内容が分かってよい。		学校の対応	○　学校運営協議会でいただいた提言等を真摯に受け止め、具体的な対応策を小中合同で検討しながら、学校運営に反映させていく。 ○　今後もホームページやケーブルテレビ等による情報発信を積極的に行い、日々の教育活動の様子を知らせていく。また、参観日等の学校行事への参加についても積極的に呼び掛けを行う。 ○　保護者や地域の方々の意見をうかがえる機会がもてるよう検討していく。

分野	目　的	目　標（評価指標）	評定 小中	評価資料の分析	考察及び改善策
地域学校協働本部	学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制づくり	⑦　地域ボランティアの方による学校支援活動を実施する。	A　A	総合的な学習の時間、郷土学、見守り隊、放課後子ども教室など、多くの方の協力を得ることができた。	今後も地域コーディネーターと連携し、支援活動の充実と地域人材の発掘に努める。
		⑧　学校支援の状況について、地域住民に情報提供を行う。	A　A	ホームページ、学校だよりやボランティア通信、ケーブルテレビ等で情報提供を行った。	様々なメディアを活用し、今後も、情報を素早く正確に提供できるように努める。
		⑨　地域コーディネーターが、主体的かつ効果的に活動できるようにする。	A　A	地域コーディネーターと学校行事に関する情報共有を行い、計画的に準備や調整を行うことができた。	学校行事等の計画を地域コーディネーターと綿密に協議し、余裕を持って準備・活動できるようにする。
	学校運営協議会委員の所見	○　多くの地域ボランティアの方々で、多様な教育活動が展開されている。ボランティアの方々に感謝する。 ○　地域ボランティア、コーディネーターの協力や先生方のおかげで、児童、生徒を育てる環境が充実していると思う。 ○　町新設の広見中「地域コミュニケーション科」の取組で、日吉地区を訪れたように、日吉中の生徒も旧広見の歴史を学んだりする機会があるといいと思う。		学校の対応	○　地域コーディネーターとの連携を強化し、更なる地域連携の強化と、地域人材の発掘に努める。また、地域ボランティアの方々の思いの伝わる通信等を発行し、教育活動の充実を図る。 ○　各種メディアを使った情報発信を心掛け、相互の理解を深めながら、学校教育に対する関心を高められるようにする。